

新市建設計画の作成にあたっての基本的な考え方について

1 基本的な考え方について

今回の新市建設計画においては、下記に掲げる「中核都市づくりについて」の考え方に基づき、新たに次の基本目標を設定することとした。

基本目標 - 県勢発展をリードする「元気発信都市」の創造 -

《中核都市づくりについて》

- ・周南地域では、かねてより山口県の発展をリードする中核都市づくりを進めるための方策として、「合併」に取り組んできた経緯がある。
- ・今回、合併の枠組みが、いわゆる3市2町から2市2町になったが、中核都市づくりを目指すという基本姿勢にはいささかの変更もないところである。
- ・しかも今回の合併は、将来的には下松市はもとより、光市や大和町をも視野に入れた「先行合併」として位置づけるとともに、この意義は周南地域の目標である中核都市づくりに向けた第一歩を踏み出すこととしている。
- ・したがって、新市建設計画では、この「中核都市づくり」の表現は積極的に用いることとする。
- ・ただし、「山口県ナンバーワン」の記述については、人口も約17万人になることからこの表現は削除するが、本地域の基本目標である中核都市づくりを目指すという基本姿勢を引継ぐため、「県勢発展をリードする」という文言の中に、この辺りの意味を込めるものとする。

2 施策の展開方向について

(1) 住民・地元ニーズへの対応

新市建設計画は、法律上(合併特例法第5条)、「合併市町村の建設を総合的かつ効果的に推進することを目的とする」とされていることから、将来的には周南全域の合併を目指すとの位置づけは持ちつつも、2市2町の枠組みによる完結したまちづくり計画とすることが要請されている。

このため、下松市が分担するとしていた機能のうち、住民生活に直結し快適な暮らしの実現にとって欠かせないものに関しては、2市2町において、包括的にその役割を担うほか、地元のニーズにも十分に応えていくこととする。

例 市民交流プラザ整備事業(下松市)

この事業で担うとしていた機能(女性センター(子育て支援)機能、国際交流機能等)を他事業で包括的に分担

上水道の計画的な整備促進(熊毛町)

地元のニーズに対応し、新たなプロジェクトを構築

(2) 適正な事業規模での施策展開

新市建設計画は、法律上の趣旨から、合併する2市2町の建設に資する事業を選定し、合理的で健全な財政運営に裏付けられた着実な計画とする必要があることから、2市2町の財政規模を十分に踏まえて、適切な事業規模により各種施策を展開していくこととする。

予算規模の推移〔普通会計ベース〕

(単位:百万円)

年 度	H14年度	計画初年度(15年度)	計画最終年度(24年度)
予 算 額	59,275	65,111	66,677
H14対比	-	9.8%増	12.5%増
備 考	2市2町の合計額		

3 計画上の変更点について

今回の合併は、3市2町の「先行合併」との位置づけにあることから、新市建設計画の作成においても、3市2町の合併協議会で作成した新市建設計画の内容を尊重していくことを基本として、次の点を中心に計画内容の見直しを行った。

(1) 先行合併の位置づけの明確化

2市2町の合併が、下松市を含めた3市2町の「先行合併」であり、将来的には光市、大和町をも含めた周南全域の合併を目指すものであるとの位置づけに基づいて、計画の中で、今回の合併を契機に、周南地域の目標である中核都市づくりに向けた第一歩を踏み出す旨を明記することとした。

(2) 地域特性の強調

周南地域は、工業整備特別地域の指定という歴史的な経過の下で、全国有数の工業集積地として発展してきたことをはじめ、物流面でも、中国地方に3つしかない特定重要港湾の1つを擁して、コンテナ貨物の取扱量は県全体の半分近くのシェアを占めるなど、他地域に誇れる優位な特性を備えている。

新市建設計画においては、これらの地域特性を最大限に生かして、多様な産業の集積による雇用の創出を図り、元気で活力に富んだまちづくりを推進する姿勢を前面に打ち出すため、可能な限りこの点を強調する表現となるよう修正を加えた。

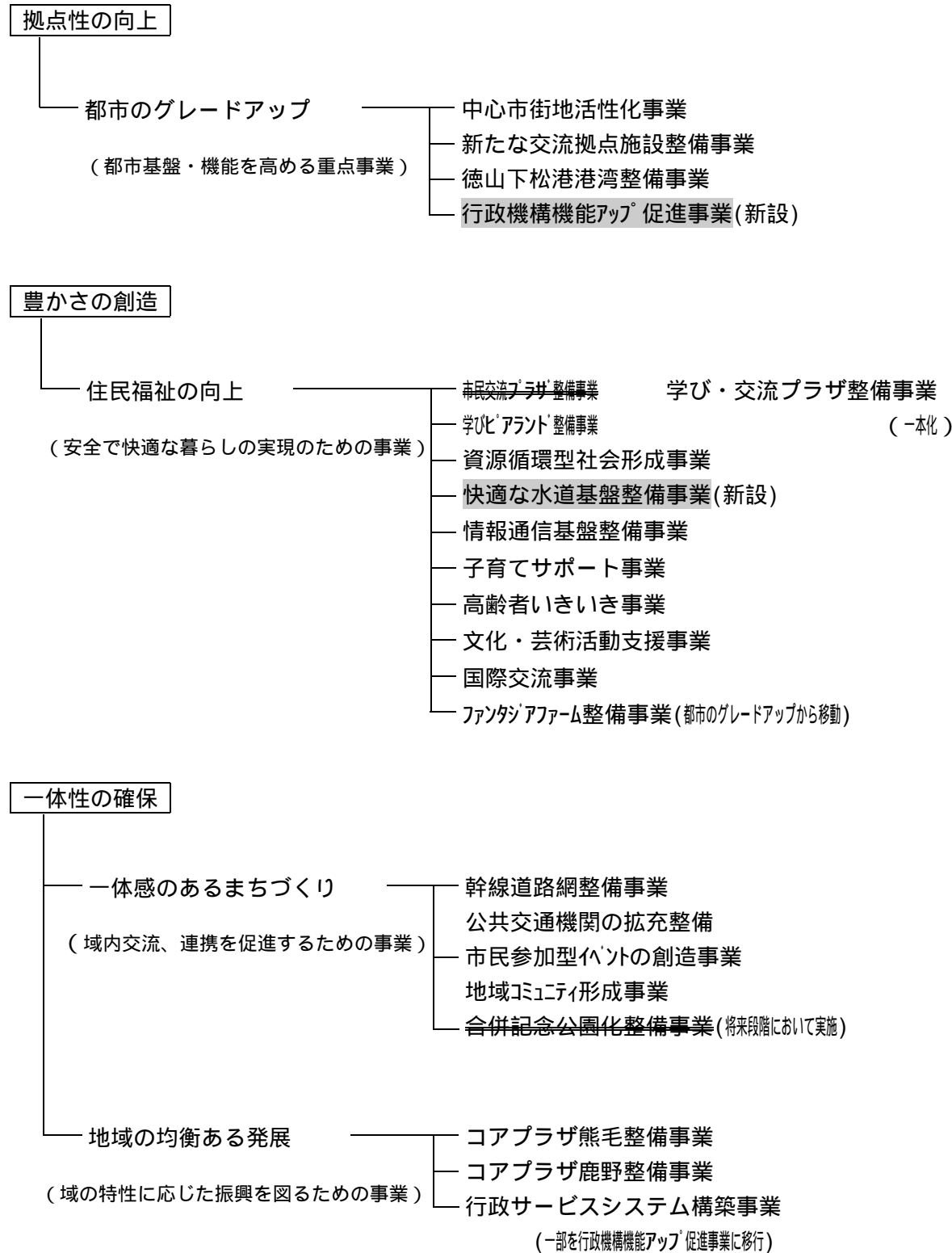
(3) リーディングプロジェクトの再編成

2市2町の合併により、山口県で最も元気で活力に富んだまちづくりを目指すことの意味表示として、「拠点性の向上」、「豊かさの創造」、「一体性の確保」という3つの視点から3市2町の時点で作成したリーディングプロジェクトを再編成した。

法律上(合併特例法第5条)、本計画では、合併市町村の「一体性の確立」、「住民福祉の向上」及び「均衡ある発展」に資するよう配慮することとされている。
今回の新市建設計画における最大の特徴は、これらの法記載事項に加え、将来的な中核都市形成を志向する観点から産業集積などの地域特性を生かして「拠点性の向上」を図るとした点にある。

また、リーディングプロジェクトの総数は従前どおりの20とするものの、合併の枠組み見直しに伴う状況変化を踏まえた上で、新市の核となる都市機能、都市基盤の整備を進める一方、住民が質の高い暮らしや豊かさを実感し、地域全体が一体感を持って、バランスのとれたまちづくりを推進できるよう、2増2減のプロジェクトの入れ替えを行った。

20のリーディングプロジェクト



〔2増プロジェクト〕

行政機構機能アップ促進事業

新市において、将来的に、周南地域はもとより県勢全体の発展を牽引する中核都市形成を志向したまちづくりを進めていくためには、その拠点性を高め、まちの核となる都市機能・都市基盤をグレードアップしていくことが是非とも必要である。

このため、本計画では、「拠点性の向上」を1つの大きな柱とし、行政の組織機構面からもサポートするものとして、新たに同プロジェクトを位置づけることとした。

快適な水道基盤整備事業

快適で安定的な水まわりの環境を確保することは、日々の日常生活には欠くことのできない要素であり、暮らしの質を高め、生活の豊かさを享受するためには、速やかに地域間の格差を是正し、地域全体の生活基盤のレベルアップを図ることが極めて重要である。

こうした中で、地域住民や地元のニーズ、さらには先の合併協議会での論議等も踏まえ、「豊かさの創造」を実現するものとして、新たに同プロジェクトを位置づけることとした。

〔2減プロジェクト〕

市民交流プラザ整備事業

これまで、下松市において機能分担するとしていたプロジェクトであり、今回の枠組みの見直しに基づき、削除するものとする。

〔ただし、住民生活に直結する機能等については、「学びピアランド整備事業」の中に一本化して位置づける。〕

合併記念公園化整備事業

今回の2市2町の合併は、「先行合併」と位置づけられ、将来的な周南全域の合併の動向を見守りながら公園化のタイミングを探ることが望ましいことから、当面は、プロジェクトとしての掲載を見合わせ、将来段階で実施を検討していくものとする。